

第4回 酒田港カーボンニュートラルポート(CNP)検討会 議事概要

令和4年2月8日(火) (書面開催)

【議事概要】

- 事務局から「酒田港 CNP 形成方針（案）」を示し、検討会として了承。

【構成員からのコメント】

- 脱炭素化への対応は、重要課題と考えており、酒田港 CNP 形成方針案にもあるとおり、技術開発の進捗に合わせて、経済性も見据えながら、社会益に繋がるよう取り組みを進めてまいります。また、カーボンニュートラルの実現が酒田の産業振興、地域活性化につながるよう、酒田港を利用させていただいている事業者として、酒田港 CNP 形成に向けた取り組みに連携・協力してまいりたい。
- 短期間に取り組めること、1企業でもできることをまずは行い、中長期的なものや官民一体となり取り組むことは今後も定期的に議論を重ねて、カーボンニュートラルに向けて積極的に取り組んでいきたいと思っております。
- カーボンニュートラルに関する国内外の動向や酒田港の現状を適確に把握した上で、酒田港 CNP 形成の実現に向けた短期・中期・長期の道筋が示されたことは、大きな一歩であると受け止めている。
- カーボンニュートラルへの取り組みは、取り巻く環境の変化に大きく影響を受ける。CNP 形成に向けた政策的なアプローチは別としても、実のある地域での取り組みを目指すのならば、本方針の取りまとめをゴールとせず、継続的な議論と修正が必要。
- 山間部などの住民が今まで通りの生活ができるようにするためには、ガソリン販売の拠点はなくてはならないものであり、脱炭素一本ではすぐに解決は出来ないものと考えます。太陽光など電気の発電も行いながら可能な限り早期の脱炭素化を進める事が出来るように協力はおしみません。